

学生のページ

海外に羽ばたく

第3回 外国のやり方って？

いしがきしげなお きゅうばひろこ せき かつみ
石垣成直・休場裕子・関 克己

前回前々回と、アジアを舞台とした話が続き、今回は欧米で活躍した土木技術者、それもゼネコンの立場から見た海外にスポットを当てました。そこで、2000年に行われたビッグイベントであるシドニーオリンピックに関連したプロジェクトに携わった(株)大林組の浜島明道氏にインタビューしてきました。

浜島明道 氏 Akimichi HAMAJIMA



1950年生まれ

1973年

1973年

1973～82年

1982～84年

1984～90年

1990～97年

1997年～

早稲田大学理工学部土木工学科卒業

(株)大林組入社

国内現場および本社管理部門勤務

米国ミズリー州立大学コロンビア校 留学

ミャンマー無償援助工事および海外工事の見積り・入札業務に従事

豪州シドニー事務所勤務

アジア地域および特別プロジェクトの営業・入札業務に従事

海外での経験をメインに今日はいろいろと聞かせていただきます。よろしくお願ひします。

よろしくお願ひします。でも日本では「海外戦士」というと、10年以上海外駐在経験のある人で一人前だと思うのですが、私の場合はすべて合わせてやっと10年を超えたところですから、少々恥ずかしいですね。

オーストラリアでの経験を話して頂けますか

そうですね。それではまず、初めてシドニーに進出した頃の話から。約30年前にある日系製紙会社のチップ船専用棧橋の設計と施行を当社が行ったのですが、その補修工事をしたのが私のオーストラリアでの工事の第1歩です。その頃事務所を開いたわけですが、実績が少なかったせい知名度も低く、最初の1、2年は名刺配りばかりでした。日本から行った技術者は当時は私一人だけでした。その後、シドニー日本人学校のとなりゴルフ場とクラブハウスの施工を行い、大林組の良い宣伝となりました。そしてブルーマウンテンの下水工事を請け負ったことでオーストラリアに大林組を根づかせることができました。その後バブルの崩壊とともに日本から進出していた他社がダメージを受けましたが、なんとかか踏ん張ることができました。

シドニーオリンピックにおいて、いくつかの工事を行ったと聞いていますが。

オリンピックスタジアムとマルチアリーナの施工ですか

ね。それから、オリンピックに関してというわけでもありませんが、シドニーM2有料道路、メルボルンのシティリンクという大きな有料道路プロジェクトの2つのプロジェクトを施工しました。オーストラリアでは日本で想像するほどはオリンピック関連の工事は多くないんです。

日本でイベントを行ったら無理にでも何か作りますもんね(笑)。では、オーストラリアの人々はのんびりしていると聞きますが、どうでしたか？

ははは。そうですね、オリンピックの開会式が時間どおりに終わらなかったことでもわかりますね。テレビでも映画のプログラムなんか、始まる時間は同じでも終わる時間はバラバラです。日本ではカットしたりしてきちっとした時間に終わるでしょう？ それはそれでいいところなんです。

また、例えば、起工式を朝10時に行うとなったら、日本では前日には完璧に準備しておきますが、オーストラリアでは前日にできなくても残業はせずに、翌日の10時まで間に合わせればよい、という感じです。M2でも初期段階では会議ばかりだったのですが、8時以降に残業するのは嫌がられたため、すべて前倒しになり、朝の5時から会議をしたりもしました。でも、私たちが遅れないように行っても、遅れて来たり(笑)。ルーズというのとは少し違うんですがね。

オーストラリア人は非常に親切で仲間意識が強い人たちです。一人でタクシーに乗るときなどは、助手席に座

って運転手と話しながら行きます。何人かで飲みに行っても、酒を奢りあうのが普通です。それに優しい人たちです。新しい道路が森を分断してしまう場合などには、コアラやカンガルー専用のトンネルを作るのが常識になっています。環境保護にも熱心です。

海外での家族生活はどうですか？

アメリカ留学時とオーストラリア勤務には家族と一緒に行了きました。しかし、海外に家族を連れて行くときに常につきまとうのが教育の問題です。先進国であれば特に問題はありませんが、途上国では、学校自体がないところもあるわけです。さらに、子供を現地の学校に通わせるかインターナショナルスクールまたは日本人学校にするか、という選択もあります。私の場合は、赴任当初は8年もいるとは予想しなかったために日本人学校に通わせてしまいました。わかっていれば現地の学校に通わせていたのですが、その方が親も子もより現地の生活に溶け込むことができますからね。

でも、日本人学校といっても、海外に住み、テレビを見たり、食事や買い物しながら実際生活しているわけですから、彼らにとっても良い経験になっていると思います。

つづいて留学について聞かせてください。

まず留学の必要性について聞かせてください。

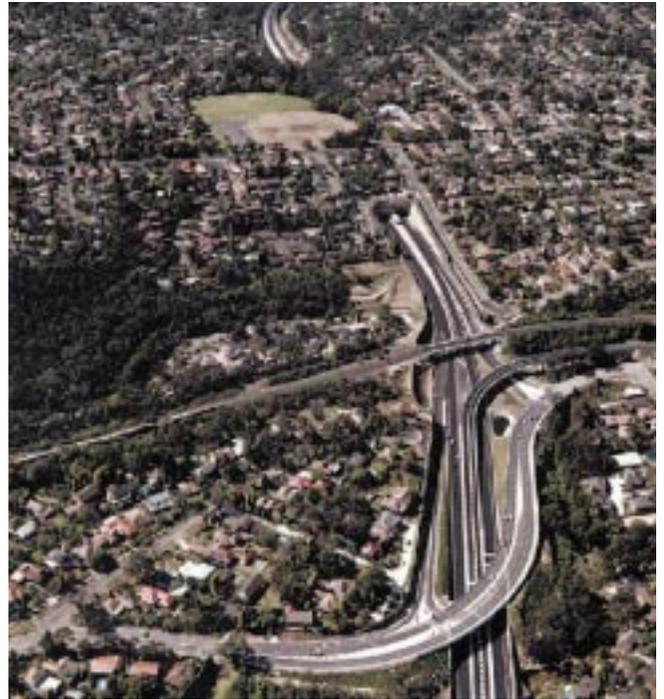
そうですね、現場や実務において留学はしなければならぬことではないですが、そんな機会があれば最高でしょうね。語学・人脈・生活経験の点でそう思います。語学については、もちろん日本にいても、業務で海外に行った場合でも勉強できますが、現地の大学に通うと、読み書きする絶対量が多いということがポイントです。また、私は家族を連れて行きましたが、その点では単身で行くほうがより効果的かもしれません。プライベートでも英語で話す仲間と常にいることができますから。仕事上海外で知り合った人よりも同じキャンパスで勉強した友人の方がずっと仲良くなれるでしょう。同級生って何か違うでしょう？

国内の大学に行くこと（例えば社会人 Dr.）と海外の大学に留学するのとではどちらがいますか？

たしかに、日本の土木工学は進んでいると言えますが、国によって特に発達した分野もありますからね。また、一般的に海外の大学の方が実務的な勉強をしていると思います。

では、学生のときに行くのと社会人になってから行くのとではどう違うのですか？

まず、学生のときに行ったほうが語学面では絶対に上達できると思います。若いというのは語学の勉強にとつ



浜島さんが従事されたM2道路

て好条件です。私なんか、もともと語学は得意ではなかったもので、TOEFLも苦しみましたよ。行ってから半年くらいは英語の勉強ばかりしていました。でも行ったもん勝ちですよ！（笑）しかし、社会人になってから行くメリットもやはりあります。海外勤務に備えて、家族に海外を体験させるということもありますし、実際に仕事での経験が勉強に役立つところも多いからです。さらに、あまり大きな声で言えませんが、会社に入ってからそんなに自分の時間が持てるということは少ないです。留学した2年間は会社の生活から離れ、もう1度外から社会を見つめなおす良い機会だと思います。リフレッシュしてまた仕事に打ち込むことができました。

先進国と後進国、その違いは？

違いがありすぎて難しい質問ですが、個人的には施工能力のある施工会社があるかどうか、また現地のローカルスタッフが使えるかどうかだと思います。それにより施工体制も大きく変わります。後進国などでは現地建設会社が未成熟なため、工事すべてを直営方式で行うのが基本です。結果として日本人職員の数も多くなります。先進国では現地の建設会社を使い、ある程度下請けとして任せることもできますし、現地エンジニアと共同で施工管理ができます。また、人件費の違いや機械・材料の有無です。先進国では人件費が高いため、機械化や最新の技術を用いることが多いのですが、後進国では機械の入手が困難だったり、その人件費の安さから人力施工を選ぶこともあります。時間とコストを考え、それぞれの国にあった施工法を考えることが大事だと思います。

海外と日本、ゼネコンとしてその違いは？

そうですね、まず下請けの体制でしょうか？ 日本の現場では特定の工事を除いて一式下請けの形式を取っていません。大工、鉄筋工事等の専業下請けを使っていますが、取りまとめているのはゼネコンの職員です。結果的に現場の職員数は増える傾向にあります。先進国ではトンネルやダム工事などはもちろん直営方式で行っていますが、一式下請け工事も多く、通常スーパーインテンデントと呼ばれる大世話役が現場のすべての手配、直接の指示をし、現場職員はエンジニアリング、施工管理、下請けの管理をしています。結果的にその職員数は日本よりかなり少なくなります。次に、日本のゼネコンの多くは技術部、設計部、技術研究所といった常設機関を所有し、技術開発に熱心ですが、海外の場合は施工だけをするのが基本です。設計はコンサルタントを雇いますし、本社の組織はスリムで巨大な本社ビルを構えている業者はほとんどありません。都心に本社を構えている会社も少ないと思います。もちろん会社の規模も日本に比べ、かなり小さくなりますが。また、現場管理の上で重要な安全についてもその認識がかなり違って、日本ほどは完璧な管理をしていないように思います。私は以前、米軍横田基地の現場にいたのですが、そのとき米軍の将校から「なぜヘルメットをかぶっているのか？ 戦争でも行くのか？」と言われたことがあります。滑走路脇の現場の上には青空しかありませんし、確かに飛来落下のリスクはゼロです。海外でも安全についてはかなり厳しいですが、耳や目のプロテクターは必需品で、自己管理が徹底しているように思えます。個人のリスクに対する意識が日本とはやや違うように思えます。

確かに、車での移動中もヘルメット着用というのはやり過ぎなのかもしれませんね。

所長権限が少ないというのも特徴ですね。海外の現場事務所は本当に日本に比べ素朴です。所長の使える予算は非常に少なく、例えばコーヒーは大型缶のネスカフェ、冷蔵庫の中はコーヒー用のミルクだけです。週末の金曜日にはビールが入ることはありますが。所長に課せられた予算はかなり厳しく、所長がまず考えることはいかに工期を短縮して人件費を最小にするかです。その反面、予定以上の利益が出ればボーナスを支給される場合もあります。M2道路のプロジェクトでも工期を6か月短縮できたのですが、当初よりインセンティブとしてボーナスが約束されていました。だから、各個人が頑張っただけでも早く完成させようとしています。その点では彼らは良く働くと思います。それらのすべてが実績となり、自らのキャリアとなります。

終身雇用制のない世界ではこのキャリアが彼らにとって非常に重要といえます。

そうですね、日本もそんな時代が来るかもしれませんね。

他にも、最近の海外での大型工事は設計施工が主流となってきました。それは、工期の短縮や設計変更が減少することがメリットとしてあげられます。日本の公共工事では現在設計施工の工事はありませんが、今後の導入に向け検討が行われていると思います。しかし、最近話題のPFI事業等では、できるだけ事業費の変更を避けるため、設計施工で工事が行われているようです。

最後に個人的に海外駐在をされて何か変わりましたか？

赴任当初、外国人は考え方が変わっているな？と思っていたのですが、海外にいと日本って不思議な国だと思うことがしばしばあります。政治の話もそうですが、本当は日本の社会が変わっているのではないかと。(笑)だからずっと海外に住んでから帰国すると、少し感覚がずれていると言われることもあるくらいです。最後に、日本の通勤ラッシュが嫌いです！(笑)

日本 VS オーストラリアのスポーツの試合ではどちらを応援しますか？

もちろん日本ですよ！しかし、例えば、アメリカ対オーストラリアでは、オーストラリアですね。私にとっては第2の故郷です。オーストラリアには日本にないものはすべてあるように思えます。自然やゆったりとした時間ですね。シーフードや食料品には困りませんが、衣類や雑貨は輸入品が多いので買い物には苦労しますけどね。

最後に、学生に向けて一言お願いします。

卒業されて、いろいろな道に進まれると思いますが、海外にはたくさんの魅力がありますので、是非積極的に出てみてください。海外に行くと国内よりも2ランク程度上の仕事をするのが要求されます。国内よりもさまざまな知識が必要とされますが、海外が嫌いな方も一度はどうでしょうか。

この記事に対する感想、ご意見は下記までお寄せください
(文責 石垣成直)。

編集

石垣成直 京都大学大学院(学生会員)
休場裕子 東京工業大学大学院(学生会員)
関 克己 中央大学大学院(学生会員)

E-mail: edi@jsce.or.jp